

令和7年度 第1回 香南市地域公共交通会議 議事録

■日 時：令和7年5月28日（水）14時00分～15時20分

■場 所：香南市役所本庁 305・306 会議室

■出席委員：別府誠（香南市副市長）

窪田充伸（高知東部交通（株））※代理

山脇深（土佐くろしお鉄道（株））

山中節子（住民・利用者代表）

西内裕晶（高知工科大学）

門田健一（土佐国道事務所）

坂本充子（香南市教育委員会）

■欠席委員：中村光明（（株）のいちタクシー）

野島康博（（有）野島ハイヤー）

別役修（香南市社会福祉協議会）

下本聖憲（高知県中央東土木事務所）

■事務局等：小川哲弘、竹下洋隆（地域支援課）

今西俊雄（（有）平和観光）

吉田雅彦（住民・利用者代表）

十川牧子（四国運輸局高知運輸支局）

長崎圭亮（南国警察署）※代理

岡田真樹（高知県交通運輸政策課）

都築敏夫（香南市高齢者介護課）

山本倫世（（有）さくらハイヤー）

松山明夫（（社）高知県バス協会）

安澤友行（四国運輸局高知運輸支局）

1. 開会

委員20名のうち13名が出席しており、会議が成立していることを報告。

会長挨拶

令和5年10月からの路線再編や、令和6年10月から開始した高校生以下等の運賃無料化により、市営バスの利用者数は年々増加しております。また、予約式乗合タクシーについても順調に運行実績を積み上げていております。

改めまして、本事業について様々なご意見やご提言をいただきました委員の皆様には、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

本日の会議におきましては、「地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の認定申請」について、また「地域公共交通計画の事業評価及び取り組み」について協議の上、承認をいただければと思っております。

事務局より説明の後に、ご協議いただければと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

2. 協議事項

（1）「地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の認定申請」について

○事務局より説明

○西内委員

2（1）目標1の「公共交通利用者の増加」について、令和6年度実績から令和8年度目標に向けて増やしている路線の理由は。

→事務局より回答

利用者数が少なく、令和8年10月の再編時等に対応策を講じる予定の路線につきましてその効果を見込んでいる。

○十川委員

交通計画記載の目標値が4万人で既に目標を達成されている。この目標値の変更は検討されないのか。

→事務局より回答

令和9年度の当該計画期間満了後、再度設定を予定している。

○都築委員

令和6年度の利用者数実績が5万人と大きく増えた要因は。

→事務局より回答

令和5年10月の路線再編後利用者数は増えており、当該再編内容で1年間通して運行した最初の年度であることと、令和6年10月からの高校生以下等無料化の結果と考えている。

○別府会長

それでは、表決をお願いします。「地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の認定申請」につきまして、協議が整ったということによろしいでしょうか。賛成の方は挙手をお願いします。

→全員承認

(2) 「地域公共交通計画の事業評価及び取り組み」について

○事務局より説明

○山中委員

事業⑦「のいち駅－土佐山田駅を結ぶ交通モードの検討」は当該路線運行の見込はあるのか。

→事務局より回答

香美市との協議で課題として出たのは、山田高校の生徒の利用ニーズが大きい場合、大きなバスが必要となるが、当該生徒の利用する時間帯以外は大いバスで運行するほどの利用者はいないだろうというところ。山田高校の意向も確認が必要である。

○吉田委員

山田高校の生徒の利用ニーズはあると思うが、利用者数は天気や季節によってかなり左右されるのではないかと。また、香美市から香南市へのニーズは大きくないのではないかと。

○今西委員

路線を1つ増やすということは、車両や運転手の経費がかかることになるが、それを賄えるだけの利便性があるのか。長期休暇等で生徒が乗らない時期を運休するとしても雇用している運転手には給料を払わなければならない。

○別府会長

香美市の住民のメリットとしては、フジグランでの買い物ができること等があると思われるが、香美市の施策の方向性として買い物は市内でもらいたいのではないかと。

○吉田委員

長期休暇等は関係なく平日は運行するとすれば利用者が増えてくる可能性はあるのではないか。運行は香美市と香南市が相互に乗り入れるのか。

→事務局より回答

香南市がバスを出して、香美市は負担金を出すというかたちも可能。

○西内委員

香美市の公共交通会議でも同じような議論をしている。香南市から香美市へ向かう移動の需要を把握する手段はあるのか。

→事務局より回答

次の再編に向けてのアンケート調査に盛り込むことは可能だが、当該調査は市営バス利用者に向けてのアンケートになると思われる。

○吉田委員

利用者は学生がメインになってくるので、学校にアンケートを依頼してはどうか。

○西内委員

土佐山田から空港に行きたいというニーズも多くはないがある。香美市内にもスーパーは複数あるのでフジグランに対する需要はない。通院で野市へのニーズがあるかは調査していない。当該路線は、運行するかどうかを誰がどのように決めるのか。

○今西委員

香南市のスクールバスは小学生が確実に乗るが、当該路線は確実性がない。長期休暇等は部活をしている生徒の利用が少しはあるかもしれない。スクールバスは混乗便なので長期休暇等でも一般の人が利用されている。

○西内委員

一般の混乗部分の利用がどれだけあるか分からない。高校生も小学生より自由度が高く、雨だから乗るとも限らない。

○山脇委員

アンケート調査等をして実際にどれだけ乗るかを予測するのは困難。ニーズを本当に把握するのであれば一定期間を決めて実証運行してそのデータを分析してはどうか。

○別府会長

実施に向けてロードマップを作った方がいいかもしれない。

○西内委員

香南市は利用者数の目標も達成しており、高校生以下等無料化の成果も出て、新しい路線の議論もされていますが、モビリティは多くの人に自分事だと思ってもらって、選択肢にしてもらうことが大事なので、市職員だけが負担する必要はないが、事業③「市職員に対する公共交通利用の促進」が令和6年度の実績なしは残念である。新しい路線を作ることも大事だと思うが、今ある公共交通を活性化させる、自分たちのものであると一段レベルを上げていただきたい。次の計画に向けてそういった機運の醸成を期待する。市役所だけが背負う必要はなく、市民全員で考えるべきだと思う。

→事務局より回答

以前の会議で西内委員よりグーグルマップは車の経路だけでなく公共交通を使った経路も乗り継ぎ方法等も含めて出ることを伺っている。そういった内容を職員に周知を図っていきたい。

○西内委員

車の経路を変えたり出発時刻を変えたりすることによる渋滞対策もモビリティマネジメントになる。公共交通の推進ばかりを言っても響かないかもしれない。車の需要が減れば事故のリスクが減りますっていうモビリティマネジメントも昔からある。

○別府会長

公共交通を使えば、車内で仕事ができるし運転による疲労もない。そういったメリットもある。

○西内委員

高知県民の公共交通の考え方を変えようと思うと、事業③はかなり大事である。

○別府会長

公共交通のメリットについて上手くアナウンスできる方法を考えていく。

○山脇委員

香南市だけが頑張る必要はなくて、環境面や安全面等いろいろあるメリットの部分を県全体で打ち出しては。

○岡田委員

県でも県職員は公共交通を使って通勤しようという運動があったが、開始当初こそ機運も高まっていたものの、長くやっていく中でだんだんと活動もマンネリ化してきている。新たな活動を検討している最中である。

○山脇委員

乗って残そうの「残そう」が既にネガティブな感じがあるので、もっとポジティブなイメージが必要ではないか。

○別府会長

それでは、表決をお願いします。「地域公共交通計画の事業評価及び取り組み」につきまして、協議が整ったということですのでよろしいでしょうか。賛成の方は挙手をお願いします。

→全員承認

本日の会議を終了いたします。次回の会議は12月の予定ですので、よろしくお願いします。ありがとうございます。

3. 閉会